

サグラダ・ファミリア主塔完成

着工140年、高さ172.5m



【バルセロナ共同】スペイン北東部バルセロナの世界遺産で建築家アントニ・ガウディの代表作サグラダ・ファミリア教会で、高さ172.5mの主塔「イエス・キリストの塔」が完成し、ローマ教皇レオ14世が10日夜（日本時間11日未明）、記念ミサを執り行った。教皇は教会を「石と色彩、光の傑作」とたたえた。10日はガウディ没後100年の命日に当たる。140年以上続く教会の建設は大きな節目を迎えたが、今後は三つのファサード（正面部）のうち最後に残る「栄光のファサード」に本格着手することになり、教会全体の完成は、さらに約10年後となる見込みだ。

教皇はミサで教会について「スペイン全土の団結と調和の象徴」と指摘。「ガウディ没後100年を記念し教会に協力した全ての支援者や後援者、芸術家、労働者に感謝をささげると述べた。また「イエスを信じながら戦争を助長することはできない」とし、改めて戦争への反対姿勢を強調。「イエスを信じながら苦しむ者や泣く者、貧困から逃れる者を置き去りにすることはできない」とも訴えた。移民問題への言及とみられる。

【バルセロナ共同】140年以上建設が続く「未完の聖堂」と呼ばれるスペイン・バルセロナの世界遺産、サグラダ・ファミリア教会。スペイン内戦や新型コロナウイルス流行などいくつもの苦難を乗り越え、主塔「イエス・キリストの塔」の完成に至った。建築には熱心なキリスト教信者だったガウディの平和への願いが込められている。

サグラダ・ファミリア教会の建築家になった1883年ごろ、ガウディはまだ30代で他の建築作品も同時に手がけていた。晩年はキリスト教信仰を深め、教会に交通事故死する直前まで、キリストの生涯を表す場面を描いた三つのファサード（正面部）の一つ「生誕のファサード」に身を粉にして取り組んだ。

ガウディの死後、弟子たちが遺志を引き継いだ。スペイン内戦（36～39年）が起きるなど建設はうまく進まなかった。ようやく動き出したのは60年代ごろ。92年バルセロナ五輪以降、観光の目玉として世界的に注目が集まるようになった。21世紀に入り人気はさらに上昇。3Dプリンターなど最先端技術の力で工事が大幅に加速した。寄付も建設も止まった新型コロナウイルス禍の危機も乗り越えた。

「栄光のファサード」の扉には「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください」というなど日本語を含む80以上の言語で刻まれ、文化や宗教を超えた全人類の愛や平和を願うガウディの思いが込められている。

教皇が記念ミサ、4000人参列

【バルセロナ共同】スペイン北東部バルセロナの世界遺産で建築家アントニ・ガウディの代表作サグラダ・ファミリア教会で、高さ172.5mの主塔「イエス・キリストの塔」が完成し、ローマ教皇レオ14世が10日夜（日本時間11日未明）、記念ミサを執り行った。教皇は教会を「石と色彩、光の傑作」とたたえた。10日はガウディ没後100年の命日に当たる。140年以上続く教会の建設は大きな節目を迎えたが、今後は三つのファサード（正面部）のうち最後に残る「栄光のファサード」に本格着手することになり、教会全体の完成は、さらに約10年後となる見込みだ。

教皇はミサで教会について「スペイン全土の団結と調和の象徴」と指摘。「ガウディ没後100年を記念し教会に協力した全ての支援者や後援者、芸術家、労働者に感謝をささげると述べた。また「イエスを信じながら戦争を助長することはできない」とし、改めて戦争への反対姿勢を強調。「イエスを信じながら苦しむ者や泣く者、貧困から逃れる者を置き去りにすることはできない」とも訴えた。移民問題への言及とみられる。

【バルセロナ共同】140年以上建設が続く「未完の聖堂」と呼ばれるスペイン・バルセロナの世界遺産、サグラダ・ファミリア教会。スペイン内戦や新型コロナウイルス流行などいくつもの苦難を乗り越え、主塔「イエス・キリストの塔」の完成に至った。建築には熱心なキリスト教信者だったガウディの平和への願いが込められている。

サグラダ・ファミリア教会の建築家になった1883年ごろ、ガウディはまだ30代で他の建築作品も同時に手がけていた。晩年はキリスト教信仰を深め、教会に交通事故死する直前まで、キリストの生涯を表す場面を描いた三つのファサード（正面部）の一つ「生誕のファサード」に身を粉にして取り組んだ。

ガウディの死後、弟子たちが遺志を引き継いだ。スペイン内戦（36～39年）が起きるなど建設はうまく進まなかった。ようやく動き出したのは60年代ごろ。92年バルセロナ五輪以降、観光の目玉として世界的に注目が集まるようになった。21世紀に入り人気はさらに上昇。3Dプリンターなど最先端技術の力で工事が大幅に加速した。寄付も建設も止まった新型コロナウイルス禍の危機も乗り越えた。

「栄光のファサード」の扉には「私たちの日ごとの糧を今日もお与えください」というなど日本語を含む80以上の言語で刻まれ、文化や宗教を超えた全人類の愛や平和を願うガウディの思いが込められている。

記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 次の[]にあてはまる語句を本文中から抜き出して書きましょう。

・サグラダ・ファミリア教会はスペインの都市[①]にある世界遺産で、建築家アントニ・ガウディの代表作である。

・[②]年以上建設が続き、「[③]」と呼ばれていたが、21世紀に入って[④]など最先端技術によって工事が大幅に加速し、主塔「イエス・キリストの塔」がついに完成した。

・サグラダ・ファミリア教会全体の完成は、さらに約[⑤]年後になる見込みである。

2 ガウディが亡くなった年は、日本の歴史でも大きな出来事があった年です。それはどんなことでしょうか。次のうちから正しいものを選び、記号を○で囲みましょう。

A 自由民権運動の高まりにより、大日本帝国憲法が公布された。

B 関東大震災が起こり、首都東京を中心に大きな被害が出た。

C 大正天皇が亡くなられ、元号が「昭和」に改元された。

D 世界恐慌の影響で、日本でも深刻な不況が起こった。

3 兵庫県にも日本を代表するような世界遺産があります。その名称を答えましょう。

